

II 特別連載 II

科学技術振興機構 『さくらサイエンスプログラム』友情と感激

第309回

新型コロナウイルスの感染拡大の影響による海外からの渡航制限のため、さくらサイエンスプログラムでも招へいが実施できない状況が続いている。科学技術振興機構(JST)では、これまでの交流により醸成された海外の送出し機関と日本の受入れ機関の良好な関係を継続させるため、また新たな交流に向けた準備のために、各機関によるオンラインプログラムへの支援を続けている。今回は佐世保工業高等专科学校によるオンラインプログラムと科学技術振興機構によるオンライン大学訪問(大阪大学)を紹介する。

佐世保高専の活動報告

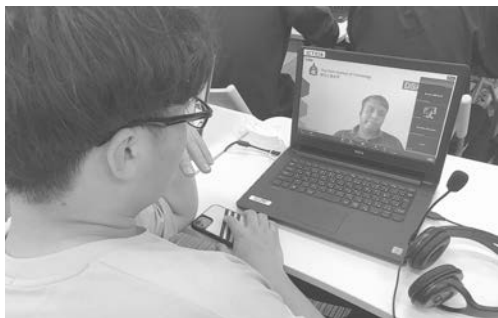


三橋 和彦  
(佐世保工業高等专科学校  
電気電子工学科教授  
・校長補佐)

タイの大学とのオンライン交流

2021年10月19日、26日の2週にわたって、タイ・泰日工業大学(TNI)とオンライン交流を実施しました。

泰日工業大学は、タイ・バンコクに2007年開学した「日本型ものづくり大学」を目指す私立大学です。約1300名の学生が自



タイ人の先生と英会話



タイの伝統舞踏を身振り手振りで学ぶ学生

2週目の10月26日は、共通言語を英語に切り替えて交流しました。午前中は、日タイ学生が互いに英語で自己紹介した後で、TNIのバーチャルキャンパスツアーを体験しました。午後は、日本とタイの文化を英語で話し合ったり、先週体験した伝統舞踏を英語で学んだりしました。TNIの学生達は、英語の会話スキルは日本人と同程度でしたが、恥ずかしがることなくどんな話してくるので、本校学生も使える英語を振り絞りながら頑張っていました。日本人は自分自身で心のハードルを高めてしまいがちですが、そん

自動車工学やコンピュータ工学、経営学等を学んでおり、日本の高専と同じく就職率100%で、卒業生の4割は日系企業に就職しています。学生達は、英語以外に日本語も学んでいて、日本との交流にとっても積極的です。オンライン交流はZoom会議を利用して実施しました。TNI側は主に個人毎にノートPCから参加した一方で、高専側の学生達は個人単位だけでなく、研究室単位や20名以上のグループでの参加となりました。伝統舞踏を習うなどの場面では、多人数で参加したことで予想外に盛り上がり方が良かったと思います。以下に、2日間の主な交流内容をご紹介します。

1週目の10月19日は、共通言語を日本語として交流しました。午前中は、電気電子工学科5年生と専攻科2年生の11名が卒業研究のグループ毎に参加して、泰日工業大学の国際交流担当者による「タイと日本の友好の歴史について」の講演を拝聴しました。古くからタイと日本は人々の往来と交流があり、コロナ禍の現在でも多くのビジネススマンが現地駐在していることを学びました。

午後は、専攻科生に加えて国際交流を体験学習している4年生24名が、タイ語とタイの伝統舞踏等をオンラインで学びました。日常で良く使うタイ語のキーワードや短い文章を学びながら、タイの食事や宗教などの伝統文化を体験しました。また、専攻科生は少数でしたが、本科の学生より自己紹介や説明が上手で、外国人との会話にも気後れなく取り組む様子が見られました。



クロージングの様子

「オンライン大学訪問」トップページ

URL : <https://ssp.jst.go.jp/en/jst/online/>  
大阪大学の回 (アーカイブ) 近日公開 (7月中)

なことに気を使う余裕もなかった迎いが、とても刺激的で良い交流だったと思います。交流の様子は長崎新聞社の取材を受けること

ともに、佐世保のローカルTV局によって収録され、放送されました。

## SSP オンライン大学訪問〜大阪大学〜

### 科学技術振興機構

#### さくらサイエンスプログラム推進本部

科学技術振興機構 (JST) は、大阪大学と共に、第14回さくらサイエンスプログラム (SSP) 「オンライン大学訪問〜大阪大学」を開催した。本イベントは、JSTが海外の高校生・大学生にオンライン擬似訪問体験を提供し、日本の優れた大学について彼らの関心を高め、日本留学への意欲を高めてもらうことを狙いとして実施している。

イベントは、大阪大学吹田キャンパスの会議室から、6月18日午後3時よりライブ配信された。マレーシア、インド、フィリピンなど38の国・地域から2200名を超える参加者を集め、海外視聴者から100以上の質問が投稿された。

冒頭、大阪大の河原源太理事・副学長が歓迎挨拶を行った。大阪が世界の住みやすさ都市ランキング (2021年度) で第2位 (日本国内1位) になったことが言及され、市内中心部へのアクセスが良く、かつ自然環境に恵まれたキャンパスでは、104カ国・地域から2600を超える留学生を受け入れ、先進的な科学技術研究が行われていることが紹介された。結びには、「このイベントを楽し

んでもらい、将来的に本

学の一員として学んでもらうことを楽しみにしている」と参加者に声を掛けた。

続いて「大学紹介」及び「Why Osaka University」の2つのパートが行われ、大阪大学グローバルイニシアティブ機構 (CGI) の教員が交代で、大阪の紹介を皮切りに学部、大学院のコース概要、英語で実施されるプログラムや大学院への入学方法、学費や奨学金、海外の提携校との交換留学制度などを詳細にわかり説明した。また、留学生として大阪大に來日して現職に至った自らの体験から、学生寮や学生サービスの解説、留学生の生活全体を支援するサポートオフィス、保険制度やキャンパスライフ健康支援・相談センターなど、海外の視聴者の関心にあわせて紹介をパネルディスカッションの形式で実施。その後、「International Students' Voices」と題してインド及び韓国出身の2名の学部生から、大阪大を選んだ理由、学業やクラブ活動など学内外での生活、卒業後の進路のほか国内各地への旅行体験談などについて写真を紹介しながら説明を行った。

メインイベントとなる2つの模擬講義は、専門分野における非常に興味深い講演となった。まず、大学院情報科学研究科の松下康之教授から、「Digitizing Reality」と題して、平面 (2D) から3D化への形状推定手法とその課題解決について詳しい解説がなされた。最後に、ラボターの動画が提供され、どのような環境で学生たちが研究を続けているかわかりやすく紹介された。

続いて、大学院生命機能研究科の甲斐歳恵教授から「Fruit Flies Tell the Secret of Germ-line Cells, Sperm, and Sperm」を用いた遺伝子研究の講義があった。豊富なスライドによる説明の後、最後に動画で実験設備やショウジョウバエを用いた研究の様子などについて、解説を入れながら紹介された。日本学生支援機構 (JASSO) の日本留学制度説明の後、「Q&Aセッション」が行われ、模擬講義の松下、甲斐両教授、CGIの先生と留学生の2名が参加し、各国の学生たちから寄せられた多くの質問に対して、回答した。なお、同イベントの収録動画は、「オンライン大学訪問」特設ページのアーカイブで近日公開予定。